

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

備前市長 吉村 武司

市町村名 (市町村コード)	備前市(33211) ()
地域名 (地域内農業集落名)	西鶴山地区(畠田・坂根) ()
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年12月10日 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

坂根地区の現状を話し合い、弱みと強みを洗い出した。

坂根地区の強み

- 水の便 ・水の心配がない・水が豊富・水がおいしい
- 地域のまとまり ・互助の意識・人間関係が良好・出会い仕事に積極的に参加・地域のイベントでの交流
- 集落営農 ・坂根営農会での耕作・耕地管理ができています・区画整理ができています

坂根地区の弱み

- 少子高齢化 ・耕作できなくなる
- 自然環境 ・ほ場の規模が小さい・石が多い・日照の悪いほ場もある
- その他 ・農機具や農道水路の老朽化・鳥獣被害・儲からない農業

(2) 地域における農業の将来の在り方

○坂根営農会

坂根営農会を中心に農地を維持していく。今後10年程度は継続できるが、その後を考えると、若い会員が必要となる。組織を充実させていく。

○若者対策

若者が農業したくなるような高収益作物の生産を検討する。Iターン新規就農者の支援や空き家への受入れも。

○SDGsな農業へ

将来的に大規模集約するには無理がある。むしろ、小規模でも持続可能な農業を模索する。半就半農でも可能な農業を。野菜作りにも適した農地を活かしていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	26 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	18 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	— ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする(別添地図のとおり)

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・大型稲作農家は集約化へ向けて話し合いが急がれる。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
・基盤整備事業は特に要望はないが、一区画当たりの面積の拡大化は検討する。(畦畔の除去)
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・市町村やJA、県、普及指導センター等と連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、親元就農等を進め、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
・集落営農組織「坂根営農会」を中心に地域で農地を維持していく

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①地域による鳥獣被害対策の集落点検マップ(侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等)づくりや、連絡網の整備や新たな捕獲人材を募集し、地域で育成していく。
 ②坂根地区においては、畑地化の実績があり、畑地化促進事業を要請に応じて進めていく。

